

序論)

私が小さい頃、父が好んでよく見ていた番組がありました。それは宇宙の神秘を特集する番組であつたり、生命の神秘を特集するような番組でした。

父は牧師ですから偶然、ビックバンが起こって世界が生まれたといったことや、泡から生命が生まれてそこから進化していったというような事を信じているわけではありません。父は、この世界は神様がお造りになり、進化によってたまたま人になったのではなく、神様の意図によって人が造られたことを信じています。

それにも関わらず、宇宙特集とか、生命の神秘特集などを好んで父がみていたのは、宇宙の広さや人の体の精密さを知ることによって、それらをお造りになった神様の偉大さを確認していたからだと思います。

今日のメッセージタイトルは「【主】の偉大さと人の小ささ」としました。私達が神様と正しい関係を持つためには、私達の【主】がどれほどの偉大なお方なのか。そして、その御方に比べ私達はどれほど小さな存在なのかを正しく理解する必要が在ると思います。

そこで、今日は聖書から、【主】の偉大さと人の小ささに焦点をあてて教えられていきたいと思います。

1) 誰も【主】に教えることはできない。12-14 節

まずは 12-14 節を読んでみましょう。

40:12 だれが手のひらで水を量り、手の幅で天を測り、地のちりを升に盛り、山々を天秤で量ったのか。もろもろの丘を<sup>はかり</sup>秤で。

40:13 だれが【主】の霊を推し量り、主の助言者として主に教えたのか。

40:14 主はだれと相談して悟りを得られたのか。だれが公正の道筋を主に教えて、知識を授け、英知の道を知らせたのか。

この箇所が主張していることは、【主】の知識の偉大さと、その【主】に人が教えることなどできない。ということです。

ここでは「だれが」という問いが繰り返されています。

「だれが手のひらで水を量り、手の幅で天を測り、地のちりを升に盛り、山々を天秤で量ったのか。」「だれが【主】の霊を推し量り、主の助言者として主に教えたのか。」「だれが公正の道筋を主に教えて、知識を授け、英知の道を知らせたのか。」

この問いに対する答えはどうなるでしょうか。誰も手のひらで世界を測ることはできないし、誰も【主】の助言者になることはできないし。ましてや【主】に知識を授ける事ができる人など誰も居ない。というのが答えですね。

17 世紀に啓蒙思想が広がり始め、人の理性が強調され、人は何にでも疑問を持ち、様々なものを分析し、調べるようになりました。その結果、科学は急速に発展し、以前ではみることができない生物の細胞などといった小さな世界から、宇宙の星までの距離といった広大な世界まで、人は測ることができるようになりました。

では、今現在、人はこの世界のすべてを知ることができるか？ というと、未だ新しい発見は次から次へと見つかっており、新しい発見が見つかるたびに新しい謎も見つかっているような状況です。それは、私達はこの世界のすべてを知ることができない証拠であり、私達の知識は、この世界をお造りになった神様の知識に至らない。ということの現れだと思います。

時々、これだけ科学が発展しているのだから、神を信じるなんて愚かだという人がいますが、私達はまだまだこの世界に対して無知な存在なのです。

そんな私達が、この世界をお造りになった神様に対して助言したり、道理を教えようとしたりするなど、おこがましい話しです。

それでも、現代の多くの人が自分は何でも知っているかのように振る舞い。神なんていない。などと簡単に断言しているのは非常に愚かなことだと言えます。

これはイザヤの時代から人が神様の前で行ってきた愚かさです。

神様はこの世界をお造りになったお方ですから、世界のすべてを知っておられるし、誰に助言を受ける必要もなく。すべての道理を知っておられるお方です。

でも、そんな神様の前で自分は何でも知っているかのように振る舞う高慢さが、人の愚かさであり、小ささなのだと思います。

## 2) すべてのものは【主】の前で無に等しい 15－17 節

次に 15 から 17 節を読んでみましょう。

40:15 見よ。国々は手桶の一しずく、秤の上のごみのように見なされる。見よ。主は島々をちりのように取り上げる。

40:16 レバノンも、薪にするには足りない。その獣も、全焼のささげ物にするには足りない。

40:17 すべての国々も主の前では無いに等しく、主には、空しく何もないものと見なされる。

ここではこの世の国々は、【主】にとって手桶の一滴、秤の上のごみのような無に等しいものだと言われています。これは数学的に理解してみるとわかりやすいと思います。

現在の日本の人口は約一億二千万人だそうです。 数字にするとこうなります。  
120,000,000 一億を超えた数字なんて普通ではあまり見ない数ですよ。

では、みなさん。神様を数字で表すとしたらどうなるでしょうか。聖書をよくご存知の人は、ヘブル語の完全数である7とか、12をつかって表現しようとするかもしれませんが。普通に考えると、神様は永遠に存在されるお方であり、無限なお方なので、無限を示す  $\infty$  このように表現するのがよいでしょう。

では、みなさん 神様にとって日本の人口はどれぐらいなのか計算してみましょう。神様は $\infty$  に対して 日本は120,000,000 答えはどうなるでしょうか。0ですよ。

数学ではどんなに 上の数が大きい数であったとしても、それこそ、アメリカの人口3億2千万人とか、中国の人口14億2千万人にしたとしても。神様を示す $\infty$ で割ったら0なのです。

神様の前ではどんなに大きな国であっても無に等しいのです。

それにもかかわらず人はこの世のもので、神様にとって無に等しいもので、神様のことを表現しようとするしてしまいます。18-20節を読みましょう。

40:18 あなたがたは神をだれになぞらえ、神をどんな似姿に似せようとするのか。

40:19 鋳物師は鋳像を鋳て造り、金細工人はそれに金をかぶせ、銀の鎖を作る。

40:20 貧しい者は、奉納物として朽ちない木を選び、巧みな細工人を探して、動かない彫像を据える。

この世のすべては神様の前で無に等しい存在です。それなのに人間は、この世のものをつかい、この世のものに似せて、一生懸命細工をし、金をかぶせたり、銀の鎖を作ったりして、偶像を作り、それを神様として拝んだりしています。

無に等しいものをつかい、無に等しいものをつかって神をつくり、それを神として拝む。

みなさん、これは神様の偉大さを無に等しいものに押し込もうとする非常に愚か

な行動です。でも、それをしてしまっているのが人の愚かさであり、小ささなのではないでしょうか。

みなさん、神様の偉大さとこの世の小ささを理解していれば、神様を偶像で表現しようなんて思えないし、その偶像を神様として拝むなんてありえないです。

でも、神様の偉大さと人の小ささをわかっていないから、人はイザヤの時代から、現代にいたるまで、この愚かな偶像礼拝を続けています。

### 3) すべてを支配される【主】

当然、この神様と人の違いは、この世の君主と世界の支配者である神様との違いでもあります。21 から 24 節を読んでみましょう。

40:21 あなたがたは知らないのか。聞いていないのか。初めから、告げられていなかったのか。悟っていなかったのか。地の基のことを。

40:22 主は、地をおおう天蓋の上に住む方。地の住民はバッタのようだ。主は、天を薄絹のように延べ広げ、これを天幕のように張って住まわれる。

40:23 君主たちを無に帰し、地をさばく者たちを空しいものとされる。

40:24 彼らが植えられ、蒔かれ、いよいよ地に根を張ろうとするとき、主はそれに風を吹きつけ、彼らは枯れる。暴風がそれを藁のように散らす。

21 節の『あなたがたは知らないのか。聞いていないのか。初めから、告げられていなかったのか。悟っていなかったのか。地の基のことを。』という問いは、『神様とこの世界の違いを知っていたら、人の権威と神様の権威の違いなどわかっていて当たり前のことでしょう。それがわかっていないのか？ 』という問いです。

このわかっていて当たりの神様と人の違いをわかっていないのが、私達なのです。22 節は詩的な表現ですが、要は、人は地上でこの世界を食い荒らすバッタのように生きていますが、神様はご自分がお作りになったこの世界を一時的な拠点としてテントのように扱っておられるということです。

人間にとって世界は自分たちが生きる舞台。でも、神様にとって世界は天幕・テントなのです。

みなさん、テントって生きるために必要なものでしょうか。「テントがないと生きていけない！」って人いますか？ 住むべき家はないと困りますけど。テントは別になくてもいいですよ。神様にとって私達が住んでいる世界というのはそのようなものなのです。

だからどんなにこの世界で王様のように振る舞っていたとしても、いや、実際に王様であったとしても、神様はそれを簡単にこの世の王たちを立てることができるし、簡単に排除したりすることができるのです。それは人が自由に種を巻いたり、収穫したりすることができるのと同じだと、聖書はいいます。

ここにこの世の支配者と世界の支配者である神様との権威の違いが現されています。みなさん、私達がどんなにこの世で威張り散らしていたとしても、神様の権威に比べたら、私達の権威なんて無いも同じなものなのです。

でも、人はそんな神様を無視して、威張り散らしているというのが現状です。

#### 4) 聖なる方を見よ

だから、神様は改めて言われます。25 節

40:25 「それなのに、あなたがたは、わたしをだれになぞらえ、だれと比べようとするのか」と聖なる方は言われる。

最近の若い人は、なんでもかんでも。神、神っていいます。

みなさん、ドラゴンボール 知っていますか？

私も小さいころよく見ていましたが、今月、そのドラゴンボールの作者である鳥山明先生が亡くなりました。世間では、彼のことを現代漫画の神だ。とか、そのように言う人もいますけど。確かに彼の絵は上手ですし、あれだけ世界中の人を熱中させたのはすごい人だと思います。私もあの人の絵はカッコいいなあと思います。

でも、この世界をお造りになった神様とは、本来、比べようありません。

それなのに、私達はときにこの世の権力者とか、この世で立派なことをした人たちを、神様みたいに扱ってしまう。

聖書でも、エジプトのパロとか、バビロンの王様とか、ローマ皇帝は、彼らは自分を神様のように扱わせていました。

でも、本当の神様はそんなこの世の権力者と比べることもできないほどの、権威を持っておられるお方なのです。それなのに、人の権力と神様の権力を同じように、扱ってしまうから、聖書は神様のことをあえて「聖なる方」と言っています。

みなさん、もうおわかりですよ。聖書がいう「聖」ってどうゆう意味でしたっけ？そう区別すべきお方、特別に扱うべきお方という意味ですよ。

【主】なる神様はこの世のものと同列に扱ってはいけないのです。【主】は【主】として特別に扱わなければいけない聖なるお方なのです。

そして、その聖なるお方が、今日の箇所最後にいわれているのが 26 節です。

40:26 あなたがたは目を高く上げて、だれがこれらを創造したかを見よ。この方はその万象を数えて呼び出し、一つ一つ、その名をもって呼ばれる。この方は精力に満ち、その力は強い。一つも漏れるものはない。

『あなたがたは目を高く上げて、だれがこれらを創造したかを見よ。』

ここでいう「目を高く上げて」というのは心の目を天国に向けてという意味ではなくって、文字通り「上を見上げて天の星々をみなさい。」という意味です。

空の星々がある宇宙は今もなお、無限に広がり続けているそうです。

そして、その無限に広がる宇宙を創造した方を見よ。 と御言葉は命じています。

この宇宙をお造りになった神様は、人が名付けていない未知の星にも名前をつけて、一つ一つ名指しでお呼びになるのです。それはつまり、人には知らないことだらけの宇宙のすべてを神様は知っておられ、その一つ一つに目をかけておられるということです。

そして、その宇宙のすべてを知っておられる神様は、「精力に満ち」「力が強く」「一つも漏らさない」お方なのです。精力に満ちというのは、この世界を創造されただけでなく、この世界を保ち続けておられるということです。私達の世界は、この世界をお造りになった【主】によって維持され、守られているからこそ、今もなお存在し続けることができるのです。

そして、この世界には、【主】なる神様の支配から漏れているものは一つもありません。人間の支配は、手が及ばないところ、影響が届かないところがあります。でも、神様の支配は、一切の漏れがなく、すべてのところに及んでいるのです。

そして、聖書は、この創造主であり、支配者なるお方を見よ！ と私達に命じています。

これは私が意図したことではありませんが、みなさん、今年のイザヤ書は、年間標

語になっているイエスから目を話さないでいなさい。という御言葉と通じる、【主】なる神様をみなさい、というメッセージがずっと言われ続けている気がしないでしょうか。私は、イザヤ書を通して、私達にずっと「創造主をみなさい」と言われ続けているように思います。

まとめ)

みなさん、【主】の偉大さと、人の小ささをちゃんと理解するのならば、私たちは【主】の前で驕り高ぶることなんてできないし、この世のものを偶像化して拝むことなんてできないし、ましてやこの世の権力者や自分の力を、神様と同じように扱うことなんてできません。

【主】はそんなものに比べることができないような偉大な方であり、私達の国や、この世界は神様の前では無に等しい存在なのです。

そうであるのならば、私達は神様に対してどのような態度を取るべきでしょうか。悔い改めの限りを尽くし、へりくだって、この聖なる【主】を見上げて、ただただ【主】を礼拝し、【主】に従うしかないのではないのでしょうか。

【主】は恵みによって私達人間にこの世界の管理を委ねてくださいました。だからこそ、私達はこの世界において色々なことをすることができます。しかし、決して【主】に対して驕り高ぶることができるような立場にいないのです。

【主】の偉大さと、自分の小ささをしり、【主】の前にへりくだって、【主】を見上げる歩みをするものとなりましょう。